

会 議 名	第1回港区地域コミュニティ検討委員会
開 催 日 時	令和7年5月12日（月） 午後2時～午後4時25分
開 催 場 所	港区役所 9階915会議室
議 事 次 第	(1) 開会 (2) 挨拶 (3) 委員の委嘱について (4) 委員長の選任について (5) オリエンテーション (6) 意見交換 (7) 次回開催日程について (8) 閉会
配 布 資 料	資料1 港区地域コミュニティ検討委員会委員名簿 資料2 港区地域コミュニティ検討委員会オリエンテーション資料 資料2-2 港区町会・自治会ガイド 資料2-3 町会等補助金の手引き 参考資料 港区地域コミュニティ検討委員会設置要綱
会議の結果及び主要な意見	
(発言者)	
事務局	(1) 開会 事務局より配布資料の確認、本日の議事進行について説明
事務局	(2) 挨拶 事務局より開会挨拶
事務局	(3) 委員の委嘱について 委員の委嘱、各委員より自己紹介、事務局より自己紹介
各委員	(4) 委員長の選任について 委員長、副委員長を選任
事務局	(5) オリエンテーション 事務局より、港区の地域コミュニティに関する現状と区の取り組みについて、説明 —オリエンテーションに関する質疑応答—
委員長	マンション一棟単位で町会に加入する場合の会員数カウント方法はどうか。
事務局	一棟を一会員としてカウントする。
副委員長	各地区の地域事業の財源は地域振興課に補助金として割り振られているのか。
事務局	各総合支所の予算で実施されている。
委員長	(6) 意見交換 地域コミュニティに関する考えや課題、理想の姿等、幅広く皆さんのご意見を伺いたい。

A委員	<p>検討委員会への外国人委員の参画や、別途意見聴取の機会を設けてはどうか。</p> <p>港区内の老人会の数が過去に比べ著しく減少している。高齢者の意見をどう体系的に収集し、反映させるかが重要な課題になっている。</p>
事務局	<p>外国人住民のコミュニティ参加については、重要であると認識しているが今から委員を増やすことは難しい。</p>
委員長	<p>例えばオブザーバーとして参加してもらい意見を聴取することは検討可能か。</p>
事務局	<p>オブザーバーとしての意見聴取は検討可能である。</p>
委員長	<p>外国人住民や老人クラブについては、必要に応じて事務局にヒアリングの機会等を検討してほしい。</p>
A委員	<p>老人クラブは、一部で町会との連携不足が存在する可能性があり、高齢者の地域参加や孤立防止の観点から重要な検討課題とすべき。</p>
副委員長	<p>町会が老人会等の特定団体への支援を見直すのは、公平性や、活動が内向きになることへの懸念が背景にある。これは町会活動が地域全体に開かれているべきとの考えに基づくものであり、子ども会など他の団体にも共通する課題である。</p>
B委員	<p>私の町会では、住民の高齢化が著しく若い世代がほとんどいないため、町会運営の担い手不足が深刻な課題である。地域の事業者は町会活動に協力的で手伝ってはくれるものの、主体的な運営までは担えず、今後のより深い連携が模索される。役員のなり手も、名前だけの参加や会議への出席に留まるケースがあり、実質的な活動は高齢の既存住民が主導せざるを得ない。この現状が行き詰った際に、町会がどうなるのか大きな懸念事項となっている。</p>
A委員	<p>町会長を務めるには、時間の余裕に加え、公にしにくい経済的余裕が実質的な条件となる。これは、会長間の親睦会費等が基本的に自己負担となり、町会予算に接待交際費の科目がないためである。実際に、この経済的負担から会長職の継続が困難になる事例や、連合会に費用補助の相談もあったが、現状では対応が難しい。企業経営者などとは異なり経費処理の仕組みもないこの問題は、会長のなり手を狭める要因である。</p>
C委員	<p>区の『町会・自治会・マンション交流活性化プロジェクト』は地域活動への関心を高め、「何か手伝いたい」という気持ちを醸成した。また、居住しているマンションでは当初町会のメリットが見えにくかったが、防災倉庫の活用という具体的な利点が認識されたことが、加入継続の動機となった。これらの経験から、町会への参加を促すには「なぜ必要なのか」「どんな良いことがあるのか」「どうすれば気軽に参加できるのか」を分かりやすく示すことが重要だと感じる。一方で、マンション内では分譲住民と賃貸住民の意識差や、個人情報保護による住民把握の難しさといった課題もある。役員の高齢化が進む中、町会活動の見える化も求められる。</p>
D委員	<p>私が居住する住宅の自治会は役員が70代以上と高齢化が深刻である。新しい住民や外国籍の住民も入居するが、月1回の掃除や順番制の幹事会といった活動の負担や、その必要性への理解不足、説明不備などから定着しにくい。ゴミ出しやエレベーター利用のため自治会加入は半ば強制的だが、活動への積極的な参加は低調で、高齢の会員が認知症になってしまい会費徴収に支障が出るなど、運営上の具体的な問題も生じている。</p>
E委員	<p>以前居住していたマンションでの経験から、現在のマンションでは入居当初より地域連携を強く意識した。7～8年の粘り強い意識啓発と仲間づくりを経て、3年前に管</p>

委員長	<p>理組合と連携する形で自治会を設立した。「防災に強いマンション」を目標に掲げ、具体的な災害シナリオを用いた啓発も行いながら活動。入居者は原則全員加入（希望者は脱退可）という方式で運営し、防災訓練への住民参加率も高い。近年は、防災訓練で英語のチラシ作成やアナウンスを行ったところ、外国人住民の初参加に繋がるなど、新たな手応えも感じている。今は私の世代が中心に活動しており、今後の世代交代も視野に入れながら、地域活動に取り組んでいる。</p> <p>他自治体で10年以上町会関連事業に携わってきた経験から、防災をきっかけに自治会がない地域で自治会を再建しようとする動きは複数あるものの、その実現は非常に困難。したがって、E委員のお話しされた成果は非常に高く評価されるものである。</p>
F委員	<p>町会が存在しないエリアで活動し、既存町会の機能を補完する役割を目指している。都心部のマンションでは、投資目的の所有者が多いことなどから住民自治が難しく、第三者管理方式による管理組合運営が増えているが、町会にも同様な外部組織が関与するコミュニティ運営も有効と考え、活動している。また、私が住む大規模マンションでは、管理組合と、既存町会の支部として機能する自治会とが、役員の交流などを通じて防災活動や地域の祭りなどでうまく連携しており、これは大規模マンションならではの好事例だと考える。私が所属する会社での知見や管理組合との接点を活かし、参考になる意見を提供したい。</p>
G委員	<p>港区内で地域交流の機会創出に取り組んでいる。地域コミュニティの根本的課題として、昔ながらの地縁関係が変化し、世帯内での世代交代がうまくいかず定住者が減少、これが町会等の維持を困難にしていると考え。港区には人口流入があるものの、新規住民への情報が十分届かず活動参加に繋がりにくいため、既存の担い手に負担が集中している現状がある。地方の「人がいない」問題とは異なり、港区には「人がいる」という強みがあるため、住民が活動の意義を理解・共有し、役割を少しずつ分担できればコミュニティは活性化するはずだが、その実現が難しい。委員会での議論がこの課題解決の一助となることを期待している。</p>
副委員長	<p>本日の前向きな議論に触れ、町会等への参加促進には、各個人にとってのメリットを具体的に説明できることと、活動自体の楽しさが不可欠と感じた。防災は重要なキーワードだが、行政の大規模対策とは別に、町会レベルでの顔の見える関係に基づく小さなコミュニティの積み重ねを重視すべきである。都心部は日常的な出会いの機会が多く、これをコミュニティ形成に活かせる可能性がある。今後の検討に向けては、様々な活動事例をより小さな単位で分析し、区内の地域特性に応じた課題の類型化と、それぞれに見合った「処方箋」を見いだしていくアプローチが有効。</p>
委員長	<p>他自治体での受託研究を通じて、自治会加入率の著しい低下や活動不参加者の増加、一方で一部の役員への負担集中といった、地域社会の深刻な構造変化を目の当たりにし、強い危機感を抱いている。この現状はみんなで楽しんで支える町会・自治会の存続が困難になっていることを示しており、本委員会はその再生を考える最後のチャンスかもしれない。港区という場でこの重要な課題に取り組む機会を得たこと、そして本日の各委員の発言から今後の議論に大きな可能性を感じ、期待を寄せている。</p>
事務局	<p>(7) 次回開催日程について 次回、第2回委員会は7月18日(金)午後6時30分から開催することを確認</p> <p>(8) 閉会 委員長により閉会</p>